

令和元年度 牛久市社会福祉協議会 事業報告書

実施事業名	実施内容	実績成果等
I.その人らしい生き方を支援する。		
1. 人が出会い、ふれあえる場の提供 家族や地域の絆を深め、お互いが理解し合い、支え合える場を作り、かけがえのない人の輪を広げる		
(1) 家族や地域をつなげる環境の整備		
①合同金婚式 ②介護者リフレッシュ事業 ③介護サロンぬくもり	○牛久市合同金婚式の開催 ・11/16 総合福祉センター ・対象者 95 組、参加者 72 組 ・式典、記念撮影 ○介護者の集い実施 ・10/15 茨城県庁、とう粹庵（水戸市） ・参加者 17 名 ○介護サロンぬくもりの協働実施 ・毎月 10 日ボランティア・市民活動センター ・参加者延べ 149 名 ・介護の悩みの共有・介護相談等	・令和元年度より本人申請となり、参加者が増えた。例年の記念撮影の他、上町ふれあい保育園児の発表や園児からのプレゼントは参加者に大変喜ばれた。 ・参加者同士の交流や介護の不安など相談の場にもなり、心身をリフレッシュする機会になった。 ・不安や悩みを共感し、相談することによって、リフレッシュにつながった。事業が幅広く知られるようになり、参加者が定着してきた。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3 月の開催は中止した。
2. 自分自身の表現する場と社会貢献につながる場の提供 その人らしい生きがいをづくりを支援し、地域において個々の力が発揮できるきっかけをつくる		
(1) 生きがいをづくりの支援		
①盛人の集い ②高齢者いきがい活動	○盛人の集い開催 ・6/22 牛久運動公園体育館メインアリーナ ・参加者 140 名、対象者数 1,073 名 ・式典・記念講演 講師：小倉洋子氏（元 NHK アナウンサー） 演題「生涯現役の人生の過ごし方～活躍を広げる～」 ・立食交流会 ○健康体操教室① ・毎月第 1・3 月曜日(15 回)、延べ 757 名 ○健康体操教室② ・毎月第 2・4 月曜日(15 回)、延べ 875 名 ○太極拳教室 ・毎月第 2・4 金曜日(19 回)、延べ 1,101 名 ○フォークダンス教室 ・毎月第 2・3・4 木曜日(27 回)、延べ 1,278 名	・地域活動への契機の間として、記念講演を行った。また、地区社協の皆さんとの立食交流会を実施し、積極的な情報交換も行った。 ・立食交流会では、参加者の皆さんに地域活動を知っていただく機会となった。 ・総合福祉センターを会場に行っている各種教室（健康体操・太極拳・フォークダンス）、また初心者向け男性料理教室とも多くの参加があり、健康増進につなげた。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2 月 4 週目より各種教室（健康体操、太極拳教室、フォークダンス教室）は中止した。

実施事業名	実施内容	実績成果等
	○初心者向け男性料理教室 ・9月～2月（8回）、延べ132名	
(2) 自分の力を地域に活かすきっかけづくり		
①地区社協リーダー研修 ②一家にひとり地域ヘルパー養成研修	○ふれあい便交流会の開催 ・1/21 地域医療連携センター ・参加者50名 ・移動店舗ふれあい便の活動報告及び利用者募集協力のお願ひ、情報交換等 ○地区社協情報交換会の開催 ・1/24 中央生涯学習センター ・参加者70名 ・各地区社協の活動紹介、情報交換 ○地域ヘルパー養成研修の実施 ・開講期間6/1～8/25のうちの7日間 ・修了者14名 (内訳)在宅福祉サービスの協力会員登録2名 介護者初任者研修受講2名 ボランティア団体立上げ1名	・区長や地区社協等の参加対象者に、令和元年度の取組みの報告を行い、今後も協力をお願いした。参加者との意見交換を行い、移動店舗へのご意見など伺った。 ・地区社会福祉協議会の特色ある地域福祉活動を互いに知り、情報共有を図ることができた。 ・研修をきっかけに、介護の専門職を目指して学びを深めた方や、手話などの技術を身につけたい方等、7割の方が地域活動やボランティア活動への意欲を示された。
II.地域住民の生活課題を解決する。		
1. 総合相談・総合支援の充実 各関係機関・団体等との連携強化を図り、住民の生活課題を早期発見・解決に結びつける仕組みを構築する		
(1) 総合相談窓口の整備と各種相談機関との連携		
①総合相談「あんしんホットライン」の運営等	○専用フリーダイヤル ・常時開設 相談件数283件 ○専門相談の設置 相談件数156件 【心配ごと相談】第1～4週金曜日 ・主な相談内容は相続、離婚等 【高齢者に関する相談】随時 ・家族介護や認知症についての相談 ○広報啓発活動の実施 ・各種総合相談チラシ配布	・あんしんホットラインは、市民の身近な相談窓口として、財産管理や相続など様々な相談が寄せられ、相談内容に応じて専門機関等へつないだ。 ・心配ごと相談は、相続に関する相談が多く、また台風被害による近隣トラブルの相談も多かった。
2. 福祉サービス利用支援の充実 住民の立場に立った福祉サービス利用の援助や、日常生活における課題に対する支援を行う		
(1) 要介護高齢者への支援の充実		
①地域包括支援センター事業	○総合相談支援業務・権利擁護業務 ・新規相談件数 791件 うち高齢者あんしん電話 151件 ・延べ対応件数 4,074件 ○包括的・継続的ケアマネジメント業務 ・介護支援専門員連絡協議会開催 3回 参加者 延べ148名 ・訪問看護事業所情報交換会実施 6回	・高齢者等からの相談について訪問や電話にて対応し、援助の必要な方について適切な支援につなげることができた。延べ相談対応件数は一層の高齢化に伴い、年々増加傾向にある。 ・新たな地域包括支援センターの立ち上げに関係機関と協力してあ

実施事業名	実施内容	実績成果等
②地域ケア個別会議事業	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護事業所等合同勉強会 (11/28 実施:57 名参加) ・グループホーム運営推進会議 22 回 (※新型コロナウイルス感染拡大防止のため 書面会議での代替実施 2 回を含む。) ○介護予防ケアマネジメント業務 <ul style="list-style-type: none"> ・指定介護予防支援事業 ケアプラン作成件数 2,392 件 予防給付収入 11,399,411 円 ・介護予防・日常生活支援総合事業 ケアマネジメント実施件数 3,480 件 総合事業収入 15,437,180 円 ○訪問調査事業 <ul style="list-style-type: none"> 認定調査件数 147 件 認定調査収入 560,980 円 ・開催回数 4 回 ・検討事例数 8 事例 	<p>たることができた。より一層セン ター間の連携を図りながら、きめ 細やかな高齢者等への支援を展開 していく。</p> <p>・個別会議では、自立支援、重度 化防止などに役立てるよう多職 種の専門的視点からケースを検 討したことで、介護支援専門員の ケアマネジメント支援を行うこ とができた。</p>
③認知症初期集中支 援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・対応件数 7 件 ・チーム員会議 延べ 11 回 ・訪問回数 延べ 41 回 「未受診の認知症が疑われる高齢者への 支援」 「介護保険サービス未利用の認知症高齢 者への支援」 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門病院受診や介護保険申請な どにつながり、家族の介護負担が 軽減された。 ・介護保険サービスに拒否的な方 への支援では、サービス利用まで に時間がかかる傾向にある。
④地域ケアシステム 推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ○サービス調整会議 <ul style="list-style-type: none"> ・7/31、3/11 は新型コロナウイルス感染症拡 大防止のため中止 ○在宅ケアチーム <ul style="list-style-type: none"> ・ケアチーム数 20 チーム <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険給付対象者 6 件 ・一人暮らし高齢者 3 件 ・身体障害 2 件 ・精神障害 3 件 ・知的障害 1 件 ・その他 5 件 ○在宅ケアチーム会議 10 回 <ul style="list-style-type: none"> ・疾病の影響で隣人トラブルになってしまっ ている高齢者世帯への支援 ・引きこもりの子と高齢の母親世帯の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業は、地域共生社会の実現 及び地域包括ケアシステムの構築 に伴い、高齢者や障がい者等の各 相談支援事業が強化され、相互連 携が図れることから、令和元年度 をもって発展的に終了した。なお、 在宅ケアチームはキーパーソンを 確認し、既存の制度につなぎ、安 定した継続的支援を依頼した。 ・サービス調整会議や在宅ケアチ ーム会議をとおして、関係機関と 連携し、世帯への支援の検討を図 ることができた。

実施事業名	実施内容	実績成果等
⑤見守り台帳整備事業	<p>・疾病の影響で判断能力が困難な本人世帯への支援</p> <p>登録人数 67 行政区（準行政区含）4,267 名（65 才以上高齢者の 17.6%）うち、高齢者世帯数 720 世帯、独居高齢者数 1,365 名</p>	<p>・地域や関係機関と連携して、要援護対象者の行方不明・所在不明時の確認等、安否確認に役立てることができた。</p>
(2) 障がい者への支援の充実		
①障害者相談支援事業	<p>●一般相談</p> <p>○利用者数</p> <p>障害児 77 名</p> <p>障害者 219 名</p> <p>○相談件数 4,062 件(児 319 件・者 3,743 件)</p> <p>身体障害 736 件(児 42 件・者 694 件)</p> <p>重症心身障害 142 件(児 50 件・者 92 件)</p> <p>知的障害 520 件(児 91 件・者 429 件)</p> <p>精神障害 2,268 件(児 2 件・者 2,266 件)</p> <p>発達障害 287 件(児 122 件・者 165 件)</p> <p>高次脳機能障害 80 件(児 0 件・者 80 件)</p> <p>その他 29 件(児 12 件・者 17 件)</p> <p>○支援方法</p> <p>訪問相談 316 件</p> <p>来所相談 179 件</p> <p>同行 12 件</p> <p>電話相談 2,556 件</p> <p>電子メール FAX 20 件</p> <p>個別支援会議 39 件</p> <p>関係機関 903 件</p> <p>その他 37 件</p> <p>・市受託金収入 16,369,589 円</p> <p>●特定指定相談</p> <p>○利用実績</p> <p>契約件数 330 件(児 119 件・者 211 件)</p> <p>身体障害 57 件(児 9 件・者 48 件)</p> <p>重症心身障害 14 件(児 11 件・者 3 件)</p> <p>知的障害 146 件(児 55 件・者 91 件)</p> <p>精神障害 45 件(児 0 件・者 45 件)</p> <p>発達障害 57 件(児 43 件・者 14 件)</p> <p>高次脳機能障害 8 件(児 0 件・者 8 件)</p> <p>難病等 3 件(児 1 件・者 2 件)</p> <p>・計画案作成件数 334 件</p> <p>・モニタリング件数 421 件</p> <p>・自立支援費収入 11,266,730 円</p>	<p>・関係機関や学校と個別のケースを通して、より連携が図れるようになった。</p> <p>・利用者数が昨年度から約 100 名増加して、支援が必要な相談が増えている。</p> <p>・医療機関・施設から退院・退所に向けての相談も増えた。様々な機関と連携することで、スムーズに在宅や施設での生活に移行することができた。</p> <p>・電話相談では、生活に不安を抱える相談が多く、傾聴や助言により、不安解消の一助となった。</p> <p>・新規契約件数は 31 件、一般就労への移行や転居等による解約件数が 30 件で、1 件増加した。</p> <p>・相談支援専門員が約 80 名の利用者を担当しているが、様々な生活課題に対して細やかな支援を行うことが出来た。</p>

実施事業名	実施内容	実績成果等
(3) 社会的援護を必要とする人の権利擁護		
<p>①福祉サービス利用 援助事業</p> <p>②成年後見サポート センター事業</p> <p>③成年後見制度利用 促進に伴う中核機関 委託事業</p>	<p>○相談件数 1,107件 認知症高齢者 563件 知的障害者 84件 精神障害者 460件</p> <p>○契約件数 31件 認知症高齢者 20件 知的障害者 3件 精神障害者 8件</p> <p>○解約件数 4件</p> <p>○生活支援員 13名</p> <p>○相談支援 141件 ・初回相談 83件【高 46、知 12、精 7、他 18】 ・継続相談 58件【高 31、知 9、精 10、他 8】</p> <p>○法人後見業務 後見 3、保佐 0、補助 0</p> <p>○法人後見監督業務 2件（市民後見人）</p> <p>○広報啓発活動 社協広報紙掲載、パンフレット・チラシ配布、 講演会 5回、出前講座 2回、研修会 9回</p> <p>○支援員養成事業 フォローアップ研修 11/5 13名参加</p> <p>○運営委員会 5/23、11/7</p> <p>○後見受任審査会 3/25</p> <p>○地域連携ネットワークの構築 ・成年後見地域連携協議会設置検討委員会 設置要綱整備と委員委嘱(委員：10名) ・成年後見地域連携協議会設置検討委員会 (4回) 10/4、11/7、12/11、1/22</p> <p>○広報機能 ・金融機関及び福祉関係者向け成年後見制 度講演会 12/12 41名 ・市社会福祉協議会広報紙掲載(R1.6.1号) ・市民向け成年後見研修会 4回 計 41名</p> <p>○相談機能 ・チーム形成 5チーム ・チーム支援会議 7回 ・チーム支援対応 21回 ・一次相談事業所連絡会 8/20、11/28 ・一次相談事業所向け研修 一日目 4回 計 38名 二日目 4回 計 35名</p>	<p>・精神障害者の相談対応が増えた ことで、30年度の相談件数を上回 った。</p> <p>・成年後見制度に対して、相談し やすい体制をつくるため、福祉関 係者等や市民への講演会の開催、 パンフレットとチラシの配布を行 った。</p> <p>・生活支援員のスキルアップのた め、フォローアップ研修を開催し た。参加者 13名中 9名は、市民後 見人養成研修の修了者と重複して いる。</p> <p>・権利擁護支援のための地域連携 ネットワーク構築を目的に、関係 機関を集めた検討委員会を実施 し、顔の見える関係性をつくった。</p> <p>・一般市民や福祉関係者など、幅 広い周知活動を実施することがで きた。</p> <p>・一次相談事業所からの相談に対 応するとともに、チーム支援のた めの体制も整備することができ た。また、ニーズの早期発見・早 期対応を目指すため、一次相談事 業所や福祉事業所向けの研修の充 実を図ることができた。</p>

実施事業名	実施内容	実績成果等
	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉事業所向け研修 3回 計 59名 ○成年後見制度利用促進機能 <ul style="list-style-type: none"> ・成年後見人等候補者調整会議設置要綱整備と委員委嘱(委員：7名) ・成年後見人等候補者調整会議 10/2、12/13、3/27 ・市民後見人養成研修修了者向けのフォローアップ研修 11/5 20名 ○後見人支援機能 <ul style="list-style-type: none"> ・成年後見選任後の相談 11件 ・親族後見人向けチラシ作成 ・親族後見人向け後見活動勉強会 2/12 25名 ○不正防止効果の取り組みに向けた検討 <ul style="list-style-type: none"> ・各事業に不正防止効果の視点を反映できるよう、担当課と打ち合わせを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携し、成年後見人等候補者調整のための体制整備を図ることができた。 ・親族後見人等への支援充実のため、チラシの作成や勉強会を開催した。今後も、関係機関と連携し拡充していく。
(4) 課題解決のための情報提供及び支援		
<ul style="list-style-type: none"> ①生活福祉資金貸付事業 ②小口資金貸付事業 ③歳末たすけ合い配分事業 ④自立相談支援事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談件数 145件 ・貸付件数 3件 ・償還件数 117件 ・相談件数 0件 ・貸付件数 0件 ・償還件数 13件 ○在宅援護対象見舞金配布事業 <ul style="list-style-type: none"> ・対象：327世帯×13,000円 ○一人暮らし高齢者ふれあい訪問事業 <ul style="list-style-type: none"> ・対象 75歳以上一人暮らし高齢者 1,389名 ・配布数 1,344名 ○生活困窮者の相談支援 145件 <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援計画（プラン）作成 32件 ・制度等の情報提供 22件 ・他機関へのつなぎ 61件 ・生活福祉資金貸付や他融資制度 5件 ・生活保護申請 25件 ○支援調整会議の実施（7/24、10/7、11/11、12/9、1/20、2/18、3/16） <ul style="list-style-type: none"> ・相談状況及び支援計画の作成について ○就労準備支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・対象者 6名（相談支援 64回） ・就労支援プログラムの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で仕事が減ったため、貸付を利用して生活費に充てることができた。 ・償還指導を行うことにより、完済に至った世帯があった。引き続き償還指導を行い、返済を促していく。 ・ふれあい訪問事業を行うことにより、地区社協を通して、各行政区での見守り活動の体制の一助となった。 ・自立相談支援事業は、広報紙やチラシ配布などの周知により、相談件数が前年度より5割増えた。相談につながりにくい、引きこもりの人を抱えた世帯支援も、専門機関との連携により徐々に増加している。 ・就労支援準備事業は、12月より就労準備プログラムを実施し、直ちに就労することが困難な対象者に対して、コミュニケーションスキルの向上を図るための支援を行

実施事業名	実施内容	実績成果等
	<p>実施日数 15 日 延べ参加人数 13 名</p> <p>○家計改善支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者 11 名 (相談支援 49 名) <p>○関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所 26 件 (社会福祉課 15、子ども家庭課 7、医療年金課 4、税務課 2) ・ハローワーク 12 件 ・障害者相談事業所 9 件 ・地域包括支援センター 7 件 ・法テラス 5 件 ・フードバンクと連携しての食糧支援 46 件 (米 378.5 kg、食品 878.5 kg) ・きずな BOX (食品収集箱) への食品提供 (米 424.8 kg、食品 729.6 kg) 	<p>い、市内介護施設での職場体験に 2 名つなぐことができた。</p> <p>・家計改善支援事業は、毎月の家計収支を確認し、家計の見える化を図ったことにより、その背後にある世帯としての課題が明らかになり、継続支援の必要性を見出すことができた。</p>

3. ニーズにあったサービスの開発と実施

生活課題の多様化・個別化に対し、関係機関等との連携を図りながら、質の高い福祉サービスを提供するとともに、新しいサービスを開発し実施する

(1) ニーズに即した介護保険事業の展開

<p>①居宅介護支援事業</p>	<p>○利用実績</p> <p>開所日数 291 日</p> <p>契約件数 187 名</p> <p>・介護保険</p> <p>実利用者数 129 名</p> <p>延利用者数 1,143 名</p> <p>介護保険収入 19,698,149 円</p> <p>・介護予防支援</p> <p>実利用者数 58 名</p> <p>延利用者数 655 名</p> <p>介護予防支援収入 2,684,517 円</p> <p>・認定調査</p> <p>認定調査件数 145 件</p> <p>認定調査収入 574,190 円</p>	<p>・前年度と比較すると要支援 1、要支援 2 の利用者の割合が若干増加している。</p> <p>・職員数が増え、他市町村からの依頼も積極的に受けていることもあり、契約件数等も全体的に増加し、認定調査についても受託件数が増加している。</p>
<p>②通所介護事業</p>	<p>○利用実績</p> <p>開所日数 309 日</p> <p>契約者数 80 名</p> <p>実利用者数 73 名</p> <p>延利用者数 7,371 名</p> <p>1 日平均利用者数 23.9 名</p> <p>介護保険収入 63,671,641 円</p> <p>○行事</p> <p>花見会 4 月 3 日、4 日、5 日 78 名参加</p> <p>夏祭り 8 月 22 日、23 日 313 名参加</p>	<p>・定員に対する 1 日の平均利用者数は約 8 割であった。</p> <p>・理学療法士の指導による機能訓練を実施することにより、利用者自身が意欲的に運動を行い、体力や筋力の維持向上につながった。</p> <p>・定期的にふれあい保育園の園児が来所し、交流会を行うことで、利用者が活動的になり、良い表情や発言が増える等の効果につなが</p>

実施事業名	実施内容	実績成果等
③訪問介護事業	<p style="text-align: center;">※保育園、わくわく等含む</p> <p>成田山参拝 10月27日 33名参加 新年会 1月9日 39名参加</p> <p>○利用実績</p> <p>開所日数 309日</p> <p>・介護保険</p> <p>契約者数 46名 実利用者数 31名 延利用者数 1,937名 1日平均利用者数 6.3名 介護保険収入 4,928,213円</p> <p>・障害者総合支援</p> <p>契約者数 40名 実利用者数 36名 延利用者数 1,447名 1日平均利用者数 4.3名 自立支援収入 5,987,035円</p> <p>・移動支援</p> <p>契約者数 21名 実利用者数 14名 延利用者数 488名 一日平均利用者数 1.6名 移動支援収入 1,616,985円</p>	<p>っている。</p> <p>・成田山参拝や新年会といった行事を企画、実施することで、多くの利用者が参加し、他者との交流や外出による楽しみを持つと共に、意欲の向上につながった。</p> <p>・職員が減ったため、利用者の人数や利用回数も減少している。</p> <p>・職員体制の整備が課題だが、応募が全くない状況が続いている。</p>
(2) ニーズに即した障害福祉サービスの展開		
①知的障害者デイサービス事業	<p>○利用実績</p> <p>開所日数 245日 登録者数 63名 実利用者数 62名 延利用者数 12,546名 1日平均利用者数 50.7名 利用者負担金収入 2,907,277円 自立支援費収入 118,837,985円</p> <p>○就労継続支援事業B型</p> <p>・請負作業(毎日) ・パン・クッキー製造(毎日) ・外出(年2回)</p> <p>○自立訓練(生活訓練)事業</p> <p>・生活訓練(集団)(毎日)</p>	<p>・契約者数は、4月に新規利用者1名増となったが、年度途中で1名が県外のグループホームに入所したため1名減となった。</p> <p>1日平均利用人数は2.5名減となった。</p> <p>・就労継続支援事業の請負作業やパン・クッキー製造において、少しずつではあるが利用者の作業能力が向上してきている。収入合計が約1,500万円となった。利用者一人あたりの月額平均工賃は、請</p>

実施事業名	実施内容	実績成果等
<p>②身体障害者デイサービス事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・買物・調理訓練（年2回） ・移動・外食訓練（年2回） ・作業訓練（毎日） ○生活介護事業 <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援班（毎日） ・創作班（毎日） ・PT（理学療法士）指導（月10回） ・生産活動 ○健康管理 <ul style="list-style-type: none"> ・朝のスポーツ（毎日） ・身体検査（月1回） ・心電図検査 （10/16,17,23,29,30, 11/12,15,20,21 計31名受診） ○行事 <ul style="list-style-type: none"> ・野外活動（10/25 アクアワールド大洗 52名参加） ・バーベキュー（6/15 30名参加） ・クリスマス会（12/14 47名参加） ○相談支援 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者懇談会（6/24 26名、2/4 25名） ・保護者面談（9/17～9/30、2/25～3/16） ○日中一時支援事業 <ul style="list-style-type: none"> 平日利用延人数 918名 土曜日利用延人数 400名 運営費補助金収入 3,951,513円 利用者負担金収入 439,057円 ○利用実績 <ul style="list-style-type: none"> 開所日数 241日 登録者数 55名 実利用者数 50名 延利用者数 4,124名 1日平均利用者数 17.2名 	<p>負作業と自動販売機管理の収入が減少したこと、新規利用者が1名増えたことが要因となり、前年度と比較して、18,959円から18,131円となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立訓練事業においては、将来就労することを想定し、軽作業などの作業訓練、相談や報告など仕事をする上で必要となるコミュニケーションの訓練を行った。また、掃除や食器洗いなどの日常生活訓練、買い物の会計や外食時のマナーなどの社会生活訓練、体力や身体の機能維持のための運動を行った。 ・生活介護事業においては、理学療法士による指導だけでなく、理学療法士が作成した訓練内容をもとに生活支援員が支援を行うことで、身体機能の維持向上を今まで以上に図ることができた。また、微細活動を繰り返し取り組むことで、創作活動や調理活動において、できる工程が増えてきている。 <p>生産活動の他に、1月より自動販売機収入を生活介護事業にも分配することで総額50,641円の工賃を支払うことができた。</p> <p>平日の平均利用者数は3.7名。 土曜日の平均利用者数は8.3名。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規登録は1名だった、入院や体調不良等により、1日の平均利用者数は昨年度に比べて減となった。

実施事業名	実施内容	実績成果等
	<p>市受託金収入 38,130,000 円</p> <p>○訓練活動</p> <p>社会生活訓練及び日常動作訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買物訓練 (月 1 回) ・調理訓練 (月 1 回) <p>機能訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OT による機能訓練 (月 8 回) ・PT による機能訓練 (月 10 回) ・プール活動 (年 8 回) <p>言語訓練 (月 1 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小グループによる言語訓練 <p>○生きがい活動 (毎日)</p> <p>創作活動及び趣味教養教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・籐細工、陶芸、絵画(月 2 回)、 パソコン(月 2 回)、書道(月 1 回)、 スポーツレクリエーション (週 1 回) ・クロッケー、風船バレー、フライングディスク、ペタンク、輪投げ <p>健康講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチポール、感染症対策について 口腔ケアについて <p>趣味教養講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草木染め、紙すき <p>自主的活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外出レクリエーション (年 2 回) ・料理レクリエーション (月 1 回) ・カラオケ (月 1 回) ・望年会 (年 1 回) <p>作品展への出展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・牛久市民文化祭 (10 月) ・茨城県ナイスハートフェスティバル (12 月) <p>作品販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴッ多市(10 月) ・W a i ワイまつり(11 月) ・しあわせ見本市 (12 月) ・社会福祉大会(2 月) <p>屋外活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お花見 (4/5 28 名) 霞ヶ浦総合公園散策 ・バーベキュー (10/11 18 名) ・ナイスハート美術展見学 (12/6 20 名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・機能訓練においては、専門家 (OT・PT・ST) の指導により、自主トレの計画・実施・評価を継続的に実施し、生活指導員が個々の生活課題に合わせて、個別訓練やグループでの訓練を行う事で、モチベーションに繋げることができた。 ・創作活動では、陶芸や籐細工等、上肢や手指の動きを意識しながら、作品販売へ向け制作を進めることで、意欲的に取り組むことができた。 ・スポーツレクリエーションでは、利用者同士が楽しみながら、身体を動かすことができた。 ・体操の改善や誰もがができる運動を取入れることで、意欲向上となった。 ・ナイスハートフェスティバルに 30 名の方が出展し、1 名の方が入賞、また、東京オリンピックをテーマとして、共同作品を制作、交流を深めながら創作活動を進めることができた。 ・作品販売では、4 回の販売で延べ 17 名の利用者が作品販売に参加し、過去最高の売上になるなど作品制作の意欲向上に繋がった。 ・屋外活動を行うことにより、利用者の社会参加活動の拡大につながった。

実施事業名	実施内容	実績成果等
<p>③放課後等デイサービス事業</p> <p>④福祉タクシー利用料金助成事業</p>	<p>交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロッケー交流会小坂団地 (5/17 18名) ・茨城県立医療大学アカペラサークル交流会 (8/30 16名) <p>相談支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際福祉機器展見学 (9/27 15名) <p>○利用実績</p> <p>開所日数 290日</p> <p>契約者数 31名</p> <p>実利用者数 25名</p> <p>延利用者数 2,261名</p> <p>1日平均利用者数 7.8名</p> <p>障害児通所給付費収入 20,468,875円</p> <p>利用者負担金収入 715,865円</p> <p>日中一時支援費収入 1,393,721円</p> <p>○行事</p> <p>クリスマス会(12/21 7名参加)</p> <p>初詣 (1/6 10名参加)</p> <p>○重度障害者福祉タクシー利用料金助成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工透析 24名 ・その他 93名 	<p>・国際福祉機器展見学では、予め、個々に見学する内容を決めていただき、少グループで見学した事で、必要な情報を得る事ができた。</p> <p>・契約者数は前年度と同様であった。新型コロナウイルス感染症防止のための令和2年3月の利用自粛の影響があり、9名の利用者が利用を控えたことで、1日の平均利用者数は0.2名の減少となった。</p> <p>・車イスの利用者や、行動障害を持つ利用者の利用頻度の増加に対応するため、居室を分けることでより適切な支援を行えるように環境を整えた。</p> <p>・申請者数は、ほぼ定着している。</p>
(3) ニーズに即した児童発達支援事業・保育園事業の展開		
<p>①こども発達支援センター事業</p>	<p>○利用実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開所日数 238日 ・登録者数 180名 ・実利用者数 175名 ・延利用者数 4,628名 ・1日平均利用者数 19.4名 ・障害児通所給付費収入 37,360,479円 ・市受託金収入 14,523,599円 <p>○発達支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小集団指導 延 3,501名 (内 肢体不自由児クラス 86名) ・個別指導 延 1,658名 <p>○家族支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習・講習 就学説明会、就園おはなし会、保護者勉強会 (全3回) 療育基礎講座 (全3回) おしゃべり会 (全10回) 合同おしゃべり会 (全1回) 延 214名 ・主な行事 	<p>・登録者数、実利用者数はともに前年度より13名増えた。月1回の個別指導のみといった利用頻度の少ない児童が多く、延べ利用者数は約300名減、1日の平均利用者数は0.9名減であった。</p> <p>・児童の発達ニーズや家庭の状況が多様化しており、個々に合わせた支援の提供に努めた。保護者からは子どもの成長が実感できたという声を多く頂いた。個別指導の希望が多かったが、指導枠に限りがあり希望に添えないこともあった。</p> <p>・保護者勉強会やおしゃべり会は、平日だけでなく土曜日にも開催したが、参加者数は前年度より少なかった。参加された保護者からは</p>

実施事業名	実施内容	実績成果等
②ふれあい保育園事業	<p>夏のつどい、秋の遠足、ムーブメント教育 (全3回) 延 343名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きょうだい児支援 延 850名 <p>○地域支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規相談(インテーク) 68件 ・保幼小への訪問支援 85件 ・公開療育 保幼15園から延71名参加 ・教委巡回相談への協力 22回 ・かるがも教室 22回 療育相談 43件/22回 <p>牛久ふれあい保育園</p> <p>○運営実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本園 130名(定員130名) ・分園 20名(定員20名) ・開園日数 291日 <p>○特別保育事業 年間延べ人数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延長保育事業 2,142名 ・一時保育事業 894名 <p>○運営費収入 本園 120,002,160円 分園 44,095,760円</p> <p><主な行事></p> <p>毎月の誕生会、社協デイサービスとの交流会、交通安全指導、食育活動、入園式、バケツ稲、蛍鑑賞会、夏祭り、運動会、祖父母の集い、5歳児筑波山登山、親子遠足、向台小学校持久走大会、クリスマス会、合唱祭、発表会、卒園式</p>	<p>概ね好評を頂いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健センターの健診からのぞみ園の療育に繋げるまでの連携がスムーズになり、新規相談が増えた。 ・幼稚園や保育園の先生方へのぞみ園が周知されるようになり、保護者へのぞみ園を勧めてくれたり、積極的に連携を図ってくれる園が増えた。 ・小学校の芸術祭に園児が参加したり、保育園の合唱祭に小学生が参加したりと、小学校との交流として、新たな取り組みを行うことが出来た。 ・地域に密着した保育園として、通常保育だけでなく、特別保育事業についても力を入れて実施してきた。地域子育て支援事業においては、「一人ぼっちのママを作らない」をテーマに、多くの親子が参加してくれた。 ・ボランティアの方の協力も活発で、地域の方にも支えられる保育園となっている。
	<p>奥野さくらふれあい保育園</p> <p>○運営実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・84名(定員90名) ・開園日数 291日 <p>○特別保育事業 年間延べ人数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延長保育事業 760名 ・一時保育 185名 <p>○運営費収入 97,394,050円</p> <p><主な行事> 毎月の誕生会、社協デイサービスとの交流会、交通安全指導、食育活動、入園式、親子遠足、奥野小学校・向原保育園との交流会、田植え、お泊り保育、おくのふれあいまつり、運動会、祖父母の集い、りんご狩り、二</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「国際理解を深める」をテーマに、英語教育を取り入れ、歌や手あそびで英語に親しんだ。また、奥野小学校の外国語指導員を週に3回、15分間年長クラスに派遣してもらい、英語教育に取り組んだ。 ・4年目を迎えたおくのキャンパスでは、小中学校と合同で行事を行うことで、園児だけでなく職員の交流ができ、お互いに話し合いを持ち連携することができてい

実施事業名	実施内容	実績成果等
	<p>中との交流会、いも掘り、秋そば収穫祭、発表会、クリスマス会、作品展、卒園式</p> <p>上町ふれあい保育園</p> <p>○運営実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本園 129名（定員 130名） ・分園 12名（定員 12名） ・開園日数 291日 <p>○特別保育事業 年間延べ人数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延長保育事業 2,451名 ・一時保育 31名 <p>○運営費収入 本園 123,084,150円 分園 23,594,760円</p> <p><主な行事></p> <p>毎月の誕生会、社協デイサービスとの交流会、交通安全指導、食育活動、入園式、親子遠足、園外保育、牛久小学校・第二幼稚園との交流会、お泊り保育、夏まつり、運動会、祖父母の集い、ふれあい保育園5歳児交流会、いも掘り、牛久三中との和太鼓交流、上町行政区夏祭り・敬老会、発表会、クリスマス会、卒園式</p>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせに力を入れ、園児の話聞く様子が、落ち着いている。また、科学する心を育む活動では、ソニー教育支援プログラムの論文に5年間応募しており、31年度は3年継続研究テーマの「アゲハチョウの観察」にとり組み、園児も職員もさらに意識を高めることができた。 ・第二幼稚園との交流が増え、英語教室やアニマル教室にも参加。新しい発見や経験ができ充実した時間となった。 ・牛久小学校への就学人数が多かったこともあり、例年以上に情報交換の時間をとり連携を図った。 ・保幼小交流会では地区社協にご協力頂き昔遊びを実施。保、幼、小、地域が一体となっており年長児が就学へ移行しやすい環境となっている。 ・地域の伝統や特徴を生かし和太鼓活動を行っている。牛久三中生との合同練習や夏祭りでの合同演技を行なうことで園児の集中力や忍耐力を養っている。 ・地区社協「とまり木」に訪問し、利用者との交流を行ったり、上町行政区の夏祭りや敬老会に参加し和太鼓演技を披露することで地域との繋がりを広めている。

Ⅲ.地域の福祉力を高める。

1. 支えあう心を養う

福祉の心を養い、地域福祉活動への関心を高める環境を整備する

(1) 情報発信による地域福祉活動の活性化

<p>①「こんにちは！社協です」の発行</p>	<p>○社協広報紙の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/1号、9/1号、1/1号、3/1号の発行(各戸及び関係機関配布) 	<ul style="list-style-type: none"> ・社協会員募集のお願いや主な事業の紹介など、幅広い取り組みを周知した。
<p>②社協パンフレットの配布</p>	<p>○社協パンフレットの作成及び配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協の主事業をまとめた総合パンフレットの作成及び周知 2,000部 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの市民や関係者等に社協パンフレットを配布し、事業の紹介や理解を広められた。

実施事業名	実施内容	実績成果等
③ ホームページによる情報発信	○ ホームページの運営及び公開 ・ ホームページの活用 ・ SNS の活用	・ ホームページ及び SNS を随時更新し、社協の PR を進めた。
<p>2. 小地域福祉活動の推進</p> <p>小地域福祉活動の基盤を整備し、住民主体の活動を支援する</p>		
(1) 小地域福祉活動の基盤づくりと活動支援		
<p>① 地域福祉活動のコーディネート</p> <p>② 地区社協活動支援助成事業</p> <p>③ 地区社協支援事業</p>	<p>○ 地区社協活動への主な支援・協働活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 牛久小学区地区社協：住民交流としてたまり場の提供、サロンとまり木の運営 他 ・ 二小学区地区社協：地区社協ボランティア移送サービスの実施、サロンむつわの運営 他 ・ 奥野小地区社協：耕作放棄地を活用し農業体験を通じた住民交流(秋の収穫祭)の実施 他 ・ 神谷小学校区地区社協：グラウンドゴルフ交流会の実施、神谷脳トレ体操の普及 他 ・ 向台小学校区地区社協：新緑祭、青空市の開催、ふれあいカフェの実施 他 ・ 岡田小学校区地区社協：1対1見守り体制づくりの充実、地区社協ボランティア移送サービスの実施 他 ・ 中根小学校区地区社協：地域探索ウォーキング、紙飛行機を飛ばそう大会の実施 他 ・ ひたち野うしく小学校地区社協：ひたち野うしくふれあいまつり、合同防災訓練の実施 他 ・ その他、各地区社協役員会・運営委員会・イベント等への協力 随時 <p>○ 地区社協会長会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4/23、8/19 懇談会 11/26 <p>○ 地区社協活動支援助成金の交付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の実情に即した地区社協活動の促進を図り、地域住民による地域福祉の増進に寄与 <p>牛久小学区地区社協、二小学区地区社協、奥野小地区社協、神谷小学校区地区社協向台小学校区地区社協、岡田小学校区地区社協、中根小学校区地区社協、ひたち野うしく小学校区地区社協</p> <p>8 地区社協×50 万円</p> <p>○ 地区社協活動支援事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地区社協の運営費助成と、地区社協活動を推進するため、地域福祉コーディネーターを設置し、円滑な事業運営を支援 	<p>・ 各地区社協とも円滑な組織運営が行われるとともに、介護予防・生活支援サービス事業の通所型サービスの運営や地区社協ボランティア移送サービス事業の支援など、より地域の課題に密着した具体的な活動が行われ、それらがスムーズに展開されるよう支援した。</p> <p>・ 赤い羽根共同募金の配分金を活用し、地区社協活動を支援するための助成事業を行い、各地区社協で地域の実情に合った活動が、積極的に推進された。</p> <p>・ 地区社協運営費を助成することによって、役員会及び運営委員会など、各地区社協とも円滑な組織運営及び事業が推進された。</p>

実施事業名	実施内容	実績成果等
<p>④認知症の人を支えるまちづくり事業</p> <p>⑤生活支援体制整備事業</p> <p>⑥福祉委員会</p>	<p>牛久小学区地区社協、二小学区地区社協、奥野小地区社協、神谷小学校区地区社協、向台小学校区地区社協 岡田小学校区地区社協、中根小学校区地区社協、ひたち野うしく小学校区地区社協</p> <p>8 地区社協×20 万円</p> <p>○認知症サポーター1 万人養成プロジェクト 認知症サポーター養成講座の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 行政区 31 名 ・3 団体 78 名 ・8 小学校 868 名 <p>○第1 層協議体の設置</p> <p>●地域生活支援協議会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1 回 6/4 23 名 ・第2 回 9/9 17 名 ・第3 回 12/2 20 名 ・第4 回 3/18 <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止</p> <p>●スキルアップ研修の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/29 45 名 地域医療連携センター 講演 地域の支え合い・助け合いについて <p>○第2 層協議体の設置</p> <p>●牛久第二小学校区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1 回 8/21 9 名 ・第2 回 10/28 12 名 ・第3 回 1/28 12 名 ・地域の支え合い研修会 3/2 元気館 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和2 年度に延期 <p>●中根小学校区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1 回 8/20 14 名 ・第2 回 11/5 14 名 ・第3 回 1/14 13 名 ・地域の支え合い研修会 2/1 60 名 グランヴィラ牛久 竹の台行政区の取組み発表、地域の紹介 講話：フレイルを予防して健康寿命をのばそう <p>○福祉委員会 5 月 14 日(火)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターを設置し、地区社協と連携し、適切な支援が行えるよう体制の充実を図った。 ・地域や諸団体、小学校において認知症への理解と支え合いの大切さを伝えた。 ・地域生活支援協議会は第2 層協議体設置の進め方を確定し、牛久第二小学校区と中根小学校区の設置に結びつけることができた。グループワークをとおして、昨年度の話し合いで見えてきた市域に共通する課題を話し合うことができ、また第1 層協議体と第2 層協議体との関係性も整理することができた。 ・第2 層協議体は、地域で実践されている活動等の情報共有を密にし、既存活動の充実を図りつつ、課題抽出へとつながった。 ・社協会費について、前年比 716 世帯、359,025 円の減となった。

実施事業名	実施内容	実績成果等
	<ul style="list-style-type: none"> ・社協会員の募集依頼について ・歳末たすけあい要援護世帯の把握について ○社協会費 <ul style="list-style-type: none"> ・一般会費 16,165 世帯 7,822,350 円 ・特別会費 62 世帯 62,000 円 9月20日(金) <ul style="list-style-type: none"> ・赤い羽根及び歳末たすけあい募金協力依頼について 	
(2) 人や地域がつながる活動の支援		
① 地域福祉活動助成事業 ② 地区社協ボランティア移送サービス事業 ③ ふれあいサロン活動の推進	○助成金交付審査会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・6/17、委員6名出席 ○申請団体18団体 ○助成決定団体18団体・39事業 ○助成額 721,000円 ○生きがいサポート協働事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・二小学区地区社協 火・金曜日に外出サポート 利用者数：延465名 ・岡田小学校区地区社協 火・水・金曜日に外出サポート 利用者数：延368名 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 3月より活動中止 <ul style="list-style-type: none"> ・向台小学校区地区社協において検討 ○ふれあいサロン設置状況 計68か所 <ul style="list-style-type: none"> ・地域サロン 60か所、回数2,659回、延38,237人 ・子育てサロン 8か所、回数71回、延909人 ○ふれあいサロン研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・10/8 総合福祉センター 40団体 70名 ロコモティブシンドロームの講話と体操 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤い羽根共同募金の配分金を活用し、障がい者支援や子育て支援のボランティア活動など、地域福祉活動支援の一助となった。 ・二小学区地区社協及び岡田小学校区地区社協が通院等の外出サポートを行い、その活動を支援した。向台小学校区地区社協においても、令和2年度からのスタートに向け検討を図った。 ・一つのサロンから体操やカラオケなど、複数の活動が広がっており、サロン活動全体が活発になってきている。 ・ふれあいサロン研修会は、ロコモティブシンドロームの講話と体操を行い、参加者に各サロンでも取り入れられると好評を得た。
(3) 住民参加による相互扶助活動の充実		
① 有償在宅福祉サービス事業	○ふれあいサービス 高齢者世帯及び障害者世帯への掃除や食事づくり等の家事援助 <ul style="list-style-type: none"> ・協力会員登録者 109名（実動29名） ・利用会員登録者 140世帯（実利用25世帯） ・延べ利用回数 684回 ・延べ利用時間 760.5時間 	<ul style="list-style-type: none"> ・盛人の集い参加者などへ積極的に呼びかけ、協力会員養成研修を行い、新たな協力会員を得た。 ・介護保険制度では対応が難しい、家事援助の活動が増加している。

実施事業名	実施内容	実績成果等
<p>②ファミリーサポートセンター事業</p> <p>③重度身体障害者移送サービス事業</p> <p>④高齢者移送サービスモデル事業</p>	<p>○ファミリーサポート 家族が子どもの面倒を見られない時の保育や送迎及び産前産後の家事援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力会員登録者 164名（実動41名） ・利用会員登録者 642世帯（実利用48世帯） ・延べ利用回数 704回 ・延べ利用時間 815時間 <p>○重度身体障害者移送サービス 車イスの方等一人での歩行が困難な方が通院・社会参加等の際の移送支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力会員登録者 26名（実動15名） ・利用会員登録者 79名（実利用16名） ・延べ利用回数 657回 ・延べ利用時間 375.5時間 <p>○高齢者移送サービス 加齢等により公共交通機関の利用が困難な高齢者に対して外出の利便を図るための移送支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力会員登録者 70名（実動25名） ・利用会員登録者 315名（実利用69名） ・延べ利用回数 1,745回 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用内訳としては、放課後の習い事への送迎や親の仕事の都合での自宅保育が増えている。 ・子ども家庭課や保健センター、障害者相談支援事業からの紹介により、必要な支援につながることができた。 ・通院及び当事者団体の定例会議等への移送が主である。社会参加は増加しているが、通院については減少傾向である。 ・主な利用状況は通院であり、登録者数は増加傾向である。

3. ボランティア・市民活動の活性化

活動支援体制を強化し、常に新たなニーズに対応できる、市民に役立つボランティア・市民活動センターの充実を図る

(1) 個々の活動支援と団体相互の連携強化

<p>①育成支援活動</p> <p>②ネットワーク活動</p>	<p>○各種講座の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめてボランティア・市民活動講座 偶数月の第4木曜 延14名 ・7/30 小学生ボランティア体験広場 30名 障害のある方との交流、車イス体験など ・7/23 NPO入門講座 16名 NPO法人に関する基本的な研修 ・2/20 災害ボランティアセンター運営訓練 57名 <p>○福祉教育推進事業の強化及び福祉教育の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉体験教室 車イス体験、アイマスク体験、 高齢者疑似体験 小学校6校 延べ645名 <p>○ボランティア団体等登録状況 登録団体数 239団体（4,936名）、</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO入門講座を通して、参加者同士の交流が生まれ、NPOの立上げを促進している。受講者から新たに2つの団体が立ち上がった。 ・災害ボランティアセンター運営訓練では、市社会福祉課と市交通防災課職員の参加も得て、運営についての共通理解を深めた。 ・登録団体のメンバーの高齢化による解散や活動中止が増加してい
---------------------------------	--	--

実施事業名	実施内容	実績成果等
	<p>個人 423名、計 5,359名</p> <p>○ボランティア・市民活動団体等との連携・協働活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆめまちネット牛久市ボランティア・市民活動ネットワークの事務局と協働連携 ・8/31 ボランティアリーダー研修会 105名 <p>○施設等ボランティア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/18 施設等のボランティア担当者研修会 16施設 21名 研修、情報交換会 	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー研修会は、ロコモティブシンドローム対策をテーマに実施し、大きな反響があった。参加者からは今後の活動に役立つと好評を得た。
(2) 新たなニーズにも対応できる機能の整備と充実		
<p>①相談・あっせん活動</p> <p>②センター機能充実</p>	<p>○センター設備及び相談窓口の整備</p> <p>○活動に関する需給調整</p> <p>ボランティア相談件数 635件 紹介件数 90件</p> <p>○運営委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5/21、10/31、2/20 <p>○ボラセンニュース(市内回覧)発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5/1、7/1、9/1、11/1、2/1 <p>○ホームページの運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設からの芸能ボランティア受け入れ等の相談は、継続して増加傾向にある。国体に伴うスポーツイベント開催の要請が増えた。 ・ボラセンニュースをご覧になった市民からの相談で、ボランティア団体やサロン活動につながった。 ・多くの方に当センターを利用いただき、ボランティア活動に参加してもらうよう、ホームページやSNSを活用した広報活動も行った。
IV.役に立つ組織に再構築する。		
<p>1. 職員教育の徹底</p> <p>職員研修の充実を図り、住民の視点に立った地域福祉の推進役となる専門性を持った職員を育成する</p>		
(1) 計画的な職員の育成		
<p>①計画的な職員の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種専門研修への参加 ・内部研修の実施 ・計画的な職員採用 <p>法人説明会 6/8、/12、/24、8/26、9/5、/19、10/3、/8、11/18、12/19 の10回開催(22名参加)</p> <p>採用試験 7/12、10/26、1/11 の3回実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・求人広告サトを利用した職員の募集や採用試験受験予定者を対象とした法人説明会を10回開催し社協事業PRを行った。また新卒学生、既卒者向けの職員採用試験を年3回実施し、令和2年4月採用となる8名の専任職員を採用した。
<p>2. 安定した財源の確保</p> <p>コスト意識を徹底し、効果的で効率的な自律した経営に努める</p>		
(1) 積極的な財源の確保		
<p>①自主事業の効率的運営及び拡充</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険事業、障害者支援事業、牛久ふれあい保育園、奥野さくらふれあい保育園、上町ふれあい保育園の拠点区分ごとに自主事業を運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の参加意欲を促すような内容を取り入れた事業展開を図るとともに、常にコストを意識した事業運営に努めている。

実施事業名	実施内容	実績成果等
②会費の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・市内法人を訪問し、社協法人会員への協力を依頼 321社 (3,203,000円) 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度対比、2社 (20,000円)の増となった。
3. 計画の進行管理 この計画の進捗状況を確認し、進行を管理する。		
(1) 理事会による進行管理		
①理事会による進行管理	<ul style="list-style-type: none"> ●理事会 ○第1回 5月29日(水) <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度一般会計補正予算(第5号,第6号)専決処分の報告 ・平成31年度一般会計補正予算(第1号)専決処分の報告 ・平成30年度事業報告 ・平成30年度一般会計収入支出決算監査報告 ・評議員候補者の提案 ・副会長の選任 ・第1回評議員会の開催 ○第2回 6月28日(金) <ul style="list-style-type: none"> ・会長、副会長及び常務理事の選任 ・職員就業規則の改正 ・パートタイム職員就業規程の改正 ・臨時職員就業規程の改正 ○第3回 3月19日(木) <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度一般会計補正予算(第2号,第3号,第4号)専決処分の報告 ・令和2年度事業計画 ・令和2年度一般会計収入支出予算 ・定款の改正 ・事務局規程の改正 ・職員給与規程の改正 ・保育士給与規程の廃止 ・居宅介護事業所運営規程の改正 ・知的障害者デイサービス事業所運営規程の改正 ・第2回評議員会の書面決議 ●評議員会 	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員構成団体の役員等の変更に伴い、評議員候補者として18名を評議員選任解任委員会に提案 ・副会長として藤田幸男理事を選任した。 ・令和元年6月の理事任期満了に伴い、新会長に根本洋治理事、副会長に藤田幸男理事、石野雅昭理事、常務理事に岡見清理事を選任。 ・労働基準法改正により、年次有給休暇5日取得について条文を追加、及び夏季休暇を5日に変更 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面による決議とした。 ・定款に就労準備支援事業、家計改善支援事業を追加した。 ・職員給与規程に保育士給与の条文を追加し、既存の保育士給与規程は廃止した。また管理職手当を増額した。 ・評議員会についても新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面による決議とした。 ・令和元年6月の理事及び監事任

実施事業名	実施内容	実績成果等
	<p>○第1回 6月28日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度一般会計補正予算(第5号,第6号)専決処分の報告 ・平成31年度一般会計補正予算(第1号)専決処分の報告 ・平成30年度事業報告 ・平成30年度一般会計収入支出決算監査報告 ・理事及び監事の選任 <p>○第2回 3月27日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度一般会計補正予算(第2号,第3号,第4号)専決処分の報告 ・令和2年度事業計画 ・令和2年度一般会計収入支出予算 ・定款の改正 ・理事の選任 <p>●評議員選任解任委員会</p> <p>○第1回 5月29日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評議員の選任 	<p>期満了に伴い、新たに15名の理事と2名の監事を選任。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面による決議とした。 ・定款に就労準備支援事業、家計改善支援事業を追加した。 ・理事の退任に伴い、推薦書に基づき1名の役員を選任を行った。 ・評議員構成団体の役員等に変更があり団体からの推薦書に基づく理事会の提案により、18名の評議員の選任を行った。

4. 適切な法人運営、事務局運営

地域住民とともに住みよいまちづくり実現を目指すための組織、運営体制の整備に努める

(1) 事務局運営体制の整備

<p>① 効率的な事務局運営</p>	<p>○一般寄付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現金 48件 942,931円 ・物品 32件 <p>軽自動車・車いす・タオル等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生命保険協会より軽自動車1台の寄贈があり在宅福祉サービス事業で活用している。
--------------------	---	---

(2) 情報発信機能の充実

<p>① 効果的なパブリシティの促進</p>	<p>・社協活動や福祉活動の情報を、社協広報紙(年4回)、パンフレットの配布(年1回)、地域かわら版(毎月)、ホームページ運営、SNS活用(随時更新)、FM うしくうれしく放送により市民の方々へ情報提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSによる情報提供により、市民の皆様へ最新の情報提供が行えている。 ・FM うしくうれしく放送で「社会福祉協議会だより」のコーナー(毎週1回)を設け、社協職員による事業紹介を行っている。
------------------------	---	--